

**教えて！**  
こどもの病気とおうちケア  
**ドクター**

無料アプリ配信中

AndroidはGoogle Playで iPhoneはApp Storeで [教えてドクター](#) 検索

## コラム ～ 時代が代われば対応は変わる ～

おそらく3年ぶりに「教えて！ドクター」の運営チームが集まりました。

普段は、SNS 上で記事の内容を打ち合わせたり、原稿などの確認をしていて、頻繁にやり取りはしているものの、全員が忙しかったり遠方のメンバーもいたりで全員が集まったことは、今回を含め3, 4回ぐらいしかありません。

今回、活動開始から10年になったため、10周年記念の冊子を発行しようという話と、NHKの取材もあって、せっくなのでと全員が集まれるお盆にあって直接話し合いをしました。その中で、10周年の冊子は「防災」にテーマを絞って過去の発行物から関連した内容を広げてまとめるものです。その中で原稿の見直しをしていたところ、10年前に掲載した内容と今の時代では少し変わっているものがありました。

特に防災は毎年色々と変化があります。ここ数年の間でも、保存食の考え方や避難のタイミングの基準など、私が担当している発達障がいの部分でも、避難場所に持っていくと良いものの中に、以前はホワイトボードよりミニ黒板のほうがと勧めていたのですが、10年経つと今は黒板が避難場所にはほとんどなくなってきていて、どちらかというとホワイトボードが主流になっています。防災だけでなく、色々なことで昔と今は違います。常に最新の情報にアップデートすることは難しいかもしれませんが、定期的に情報は確認していくことが大切です。

実は、私達の仕事も10年前と今では全然考え方が違うものや、真逆まではいかないですが、以前はNGだった事が時代が変わり主流になっているものがあります。みなさんも「そう言えば、最近確認してないな？」ということがあったら、一度、再確認してみるのはいかがでしょうか？

教えて！ドクターは、佐久市の子育て事業の一つから始まり、佐久医療センター 小児科医 坂本先生が中心になり、イラストレーターやWebデザイナーなどがプロジェクトチームを作り、最新の情報や季節ごとのお子さんに起こる様々な注意、病気などの注意喚起、情報提供をしているチームです。アプリもありますので良ければ佐久市の方以外でも活用でき世界中で使われているので興味のある方はアプリをダウンロードしてみてください。

Appストアや、Google Play から「教えて！ドクター」で検索してみると黄色いアイコンがあります。

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たんときッズあおきまで、ご相談いただければ対応いたします。

## たんときッズあおき（NPO法人たん。）

### TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たん



# あなたの知らない発達障がいの世界

2025.9

## 子どもの成長で現れるあれって???

子どもの成長段階で必ずと言っていいほど現れる現象。

そうです、「反抗期」と「思春期」です。

この2つの時期の過ごし方、そして家族の対応の中で発達障がいのお子さんとの関わりで注意しなければならないポイントを紹介していききたいと思います。

反抗期、思春期は子どもの心が成長し、自分の意思がハッキリしてくる時に起きる行動です。

この行動は、基本的には誰にでも起きることですが、発達障がいのおさんは注意が必要な時期でもあります。

反抗期と思春期の詳しい内容については、色々な冊子などで情報が出ていますので、今回は割愛させていただきその中で発達障がいのおさんに特化した内容をお伝えします。

発達障がいの支援の中で「誤学習」という言葉があります。これは、言葉どおり **“自分自身にとって都合の良いように誤って覚えてしまうこと”** です。第二次性徴期は、ホルモンバランスが変わり心の成長に伴い思うようにならないモヤモヤとの葛藤からくる行動ですが、発達障がいのおさんの場合、その反応が全く無いわけではないのですが、中には違う理由で起こした行動が勘違いされてしまうこともあり、結果的に誤学習につながってしまう可能性を考えなければならないと思います。

子どもの成長は、親にとって嬉しいことです。しかし、この時勘違いしないようにする事がお子さんの将来を大きく分ける判断になります。「きっと反抗期だから」「思春期だから」と行動を、そのうち収まると大めにみていると、次第に行動が激しくなり、気づいた時には止められない状況になってしまうことがあります。

健常のおさんの第二次性徴期の反応と、発達障がいのおさんの反応で、大きく違うところは反抗的な態度や言動などが、家族や身近な関わりの方だけでなく、普段あまり関わらない方にも同じ態度が現れる場合は注意が必要です。

第二次性徴期は身体の変化が大きく現れます。この時期はホルモンの変化も現れ自分自身もモヤモヤした感覚になりますが、その身体の変化を自覚することが難しいことがあります。また、この身体の変化や自我の目覚めによる反応は、次第に状況を理解し、自分自身の気持ちのコントロールができるようになる事で、行動や言動が落ち着いてきますが、発達障害の子の中で「反抗期かな？」と思える行動が見られた時に、今の行動がなぜ起きたのかを確認し、その理由を本人と確認をするということが面倒なことではありますが誤学習を防ぐためにとても大切なことです。

この時、例えば反抗的な態度を取ることが悪いことではありません。それがなぜ起きたのか？ということが大切なので、叱る必要はありません。起きてしまったこと、反抗的な態度を取るのではなく、正しい伝え方を伝え理解してもらうこと。この繰り返しにより、本人に「僕のことを理解してくれている」と安心を感じてもらえる事が大切なのです。この時期に、発達障がいの子の行動が激しくなり手に負えなくなってしまう事があるのは、このやりとりをせずに、反抗期だからと軽く見てしまうことで「僕の事を理解してくれない」と思い、さらに理解してもらえるように激しい行動に繋がってしまうという悪循環が原因の一つに挙げられています。

最近では、反抗期がない子が増えていると言われています。なぜ、そのような事が起きるのか？と言われると確実ではありませんが、ある程度の自由が子どもに与えられているため、あまり不自由を感じていないのも一つではないかと言われています。当然、これは子どもの成長を見守り、信じているのが前提になります。

この時期の対応を慎重に行うことで、発達障がいのおさんで第二次性徴期に起きやすい症状を防ぐ事もできます。発達障がいのおさんの第二次性徴期に起きやすい症状（二次障がい）をいくつか紹介します。

- |                 |          |          |
|-----------------|----------|----------|
| ・うつ病、躁うつ（双極性）症状 | ・不安症、強迫症 | ・不安症、強迫症 |
| ・トラウマ関連障がい      | ・統合失調症   | ・摂食障害    |



これらの症状のきっかけは、第二次性徴期における家族とのコミュニケーション不足から起きることも要因として挙げられています。子どもの大切な成長期間で、避けては通れないものですので二次障がいにつながっていかない関わりを持っていきたいですね。